

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立名草小学校
校長氏名	鈴木 英樹
作成日	平成 30年 2月 5日

1 教育目標

心豊かで たくましく生きる子ども

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 1 保護者・地域との連携 2 保護者や地域のニーズをふまえた教育活動 3 外部講師等による学びと育ちの広がり 	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育環境の整備 2 健やかな体の育成 3 読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 1 思考力・表現力、コミュニケーション能力を育てる授業の充実 2 問題を見つける力、問題を解決する力を中心とした深い学びの過程の実現 3 子どもの実態に対応した教育のための研修の充実

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りを毎月地域に配布するとともに、学校のホームページに挙げ、取組や現状について発信した。 ・民生委員さんと保護者の協力で『子ども見守り強化の日』には、それぞれの拠点で見守っていただいた。 ・地域の方と育友会が避難路の整備を一緒に行った。餅つき大会や避難訓練では、地域の方にご協力いただいた。 ・特別支援教育に関わり、子ども支援センターや児童相談所との連携を行った。 ・市教委の客員指導主事の山本紀代先生に授業についての指導をお願いした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館の舞台下の倉庫が大雨の影響で浸水した。それに伴い内側ドアが壊れたので2か所取り替えた。それ以外にも雨漏りの補修等学校生活環境の改善に努めた。 ・体力テストのデータ分析を行い、心と身体の健康に生かす。 ・読書活動の計画を立てるとともに図書室の開放やコーナーの充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究教科を算数に絞り研究授業を各学年で行い、思考力と表現力高めるための授業に取り組んだ。 ・問題解決力を育成する学びの過程の研究については、客員指導主事の山本紀代先生に教材研究の段階から指導をお願いし、授業改善に取り組んだ。 ・子どもの実態を捉え授業に活かす方法については今後も研究を進めるようにしたい。 ・学びタイムの内容を検証し効果が出るように内容を校内で統一した。
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の児童の見守りについては民生委員さんや保護者の協力を得られた。下校時は、保護者に家の前での指導をお願いしている。 ・地域にとって避難路が大切な存在であることが共有できた。年間3回の定期的な整備計画を立て実践できた。避難訓練も地域を巻き込んで実施できた。 ・特別支援の関係でスクールソーシャルワーカーと連携し、児童の生活を改善するように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学校生活に関係する設備について、できる限り改善するように自校の予算を使うとともに教育委員会にも働きかけある程度対応できた。 ・体力テストのデータを返却した。内容は良い結果が表れているので、心と身体の健康づくり計画的に行う。 ・学びタイムの金曜日に読書の時間を取った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学年で研究授業を実施し、思考力や表現力を高める授業の在り方を研究し、算数科の授業について全教職員が理解を深めている。 ・全国学テ等について、精度の高い分析を行い、改善の方向を示した。 ・学力向上委員会を設置し、学力向上のための学びタイムを再編した。 ・個に応じる指導について、校内の委員会で話し合い、個別の指導計画を作成している。
次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・『子ども見守り強化の日』の活動と通学路の安全確保（時間規制等）を合わせた計画を整理する。 ・地域の方との定期的な交流場面を計画する。 ・コミュニティースクールに移行するに当たり、地域の方に委員会に参加いただき、地域の求める学校像を提案いただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災報知器の交換等を行い、安心安全な学校生活を送れるような学校環境整備を継続して行う。 ・活動室の有効な活用計画を立てる。 ・子どもの体力づくりに関する年間年間計画を作成する。 ・読解力に課題が見られることから、目的をもった読書を計画できるように読書時間の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科における教材研究の方法や内容について検討し充実を図る。 ・客員指導主事の山本紀代先生に全学年の研究授業にご指導いただく。 ・思考力と表現力についての視点を明確にした研究授業を提案する。 ・学習意欲や成果の評価方法についてまとめる。 ・教科指導・インクルーシブ教育等について外部講師による継続的な研修を実施する。

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の通学路が狭く、交通量が多い。児童の安全確保が難しく、今後地域の方とも連携して時間規制等の交通規制を含めた対策が必要である。 ・施設の老朽化が目立ち、保全・整備が難しい箇所がある。特に火災報知機や防火扉等命に係わるものについては早急な改善が必要と考える。 ・いのしし（いのぶた）の目撃が頻繁になり、児童の安全確保と学校施設の保全が課題である。学校内に柵を設置する計画が進んでいる。
--